

# 上級ミクロ経済学：解答 3

川崎 雄二郎\*

2009年5月11日

1. 任意の  $(p, w) \in \mathbf{R}_{++}^L \times \mathbf{R}$  に対し, (Marshallian, Walrasian) 需要対応  $x(p, w)$  は次を満たす: 任意の  $\hat{x} \in x(p, w)$  に対し,

$$p \cdot \hat{x} \leq w,$$

かつ  $p \cdot z \leq w$  なる任意の  $z \in \mathbf{R} \times \mathbf{R}_+^{L-1}$  について

$$\hat{x} \succeq z.$$

$\alpha \in \mathbf{R}$  を任意にとる.  $p \cdot y \leq w + \alpha$  なる全ての  $y \in \mathbf{R} \times \mathbf{R}_+^{L-1}$  に対し,  $y_\alpha := y - \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0\right)$  と定義する. このとき,  $p \cdot y_\alpha = p \cdot y - \alpha \leq w$  より, 全ての  $\hat{x} \in x(p, w)$  について

$$\hat{x} \succeq y_\alpha$$

であるから, quasi-linearity により,

$$\hat{x} + \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0\right) \succeq y_\alpha + \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0\right) = y$$

成り立つ. したがって, 任意の  $\hat{x} \in x(p, w)$  に対し

$$\hat{x} + \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0\right) \in x(p, w + \alpha).$$

ここで得られる結果は厳密には  $x(p, w) + \left\{ \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0\right) \right\} \subseteq x(p, w + \alpha)$  までであるが, 一方で  $\beta = -\alpha \in \mathbf{R}$  及び  $w' = w + \alpha \in \mathbf{R}$  に対して, 上と同じ議論を行うことにより  $x(p, w') + \left\{ \left(\frac{\beta}{p_1}, 0, \dots, 0\right) \right\} \subseteq x(p, w' + \beta)$ , ゆえに  $x(p, w + \alpha) \subseteq x(p, w) + \left\{ \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0\right) \right\}$  も求められるので,  $x(p, w) + \left\{ \left(\frac{\alpha}{p_1}, 0, \dots, 0\right) \right\} = x(p, w + \alpha)$  が成り立つ.

---

\* 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程1年. 質問は jiro\_likes\_1a2s3k@msn.com までメールください.

2. (a) 結果のみ示す．ここで， $(p, \bar{u}) \in \mathbf{R}_{++}^2 \times \mathbf{R}$ における Hicksian 需要対応，支出関数をそれぞれ  $h(p, \bar{u})$ ， $e(p, \bar{u})$  とする．

$$\begin{aligned} p_1 < p_2 \text{ のとき} & , \left\{ \begin{array}{l} h(p, \bar{u}) = \{(\bar{u}, 0)\}, \\ e(p, \bar{u}) = p_1 \bar{u} \end{array} \right\}; \\ p_1 = p_2 \text{ のとき} & , \left\{ \begin{array}{l} h(p, \bar{u}) = \{(x_1, x_2) \in \mathbf{R}_+^2; x_1 + x_2 = \bar{u}\}, \\ e(p, \bar{u}) = p_1 \bar{u} (= p_2 \bar{u}) \end{array} \right\}; \\ p_1 > p_2 \text{ のとき} & , \left\{ \begin{array}{l} h(p, \bar{u}) = \{(0, \bar{u})\}, \\ e(p, \bar{u}) = p_2 \bar{u} \end{array} \right\}. \end{aligned}$$

(b) 初めに， $p_1 \neq p_2$  ならば， $(p, \bar{u})$  の近傍において  $e(p, \bar{u})$  は  $p_1 \bar{u}$  または  $p_2 \bar{u}$  のどちらか一方に定まることから，微分可能．

次に， $p_1 = p_2$  なる任意の  $(p, \bar{u}) \in \mathbf{R}_{++}^2 \times \mathbf{R}$  において微分可能でないことを示す． $\bar{p} = p_1 = p_2$  としよう．たとえば  $(1, 0, 0)$  の方向について，十分小さい  $\varepsilon > 0$  においては  $p_1 + \varepsilon > p_2$ ，また絶対値の十分小さい  $\varepsilon < 0$  において  $p_1 + \varepsilon < p_2$  が成り立つので，

$$\begin{aligned} & \lim_{\varepsilon \searrow 0} \frac{e(\bar{p} + \varepsilon, \bar{p}, \bar{u}) - e(\bar{p}, \bar{p}, \bar{u})}{\varepsilon} \\ &= \lim_{\varepsilon \searrow 0} \frac{\bar{p}\bar{u} - \bar{p}\bar{u}}{\varepsilon} \\ &= 0 \end{aligned}$$

であるが，一方で

$$\begin{aligned} & \lim_{\varepsilon \nearrow 0} \frac{e(\bar{p} + \varepsilon, \bar{p}, \bar{u}) - e(\bar{p}, \bar{p}, \bar{u})}{\varepsilon} \\ &= \lim_{\varepsilon \nearrow 0} \frac{(\bar{p} + \varepsilon)\bar{u} - \bar{p}\bar{u}}{\varepsilon} \\ &= \bar{u} \end{aligned}$$

であるので，微分可能でない．

以上より， $p_1 = p_2$  を満たす任意の  $(p, \bar{u}) \in \mathbf{R}_{++}^2 \times \mathbf{R}$  において，かつそのときのみ， $e(p, \bar{u})$  は微分可能でない．

(c) (b) により， $p_1^* = p_2^*$  が成り立つ．そこで  $\bar{p}^* = p_1^* = p_2^*$  とすると，与えられた式は以下のように書き換えられる．

$$q_1 (p_1 - \bar{p}^*) + q_2 (p_2 - \bar{p}^*) \geq \bar{u} \min \{p_1 - \bar{p}^*, p_2 - \bar{p}^*\}.$$

これより， $q_1 \geq 0, q_2 \geq 0$  かつ  $q_1 + q_2 = \bar{u}$  を満たすように  $q \in \mathbf{R}^2$  を選べば，かつそのときに限り，任意の  $p \in \mathbf{R}_{++}^2$  に対して与えられた式が成り立つことを示す．

まず， $q_1 < 0$  ならば， $p_1 - \bar{p}^* > 0, p_2 - \bar{p}^* = 0$  のときに

$$\begin{aligned} q_1 (p_1 - \bar{p}^*) + q_2 (p_2 - \bar{p}^*) &= q_1 (p_1 - \bar{p}^*) \\ &< 0 \\ &= \bar{u} \min \{p_1 - \bar{p}^*, p_2 - \bar{p}^*\} \end{aligned}$$

が成り立つ。  $q_2 < 0$  の場合についても同様。さらに、  $q_1 + q_2 > \bar{u}$  ならば  $p_1 - \bar{p}^* = p_2 - \bar{p}^* < 0$  のときに

$$\begin{aligned} q_1(p_1 - \bar{p}^*) + q_2(p_2 - \bar{p}^*) &< (q_1 + q_2)(p_1 - \bar{p}^*) \\ &< \bar{u}(p_1 - \bar{p}^*) \\ &= \bar{u} \min\{p_1 - \bar{p}^*, p_2 - \bar{p}^*\} \end{aligned}$$

が成り立つ一方、  $q_1 + q_2 < \bar{u}$  ならば  $p_1 - \bar{p}^* = p_2 - \bar{p}^* > 0$  のときに

$$\begin{aligned} q_1(p_1 - \bar{p}^*) + q_2(p_2 - \bar{p}^*) &= (q_1 + q_2)(p_1 - \bar{p}^*) \\ &< \bar{u}(p_1 - \bar{p}^*) \\ &= \bar{u} \min\{p_1 - \bar{p}^*, p_2 - \bar{p}^*\} \end{aligned}$$

が成り立つ。よって、与えられた不等式が成立するためには、  $q_1 \geq 0, q_2 \geq 0$  かつ  $q_1 + q_2 = \bar{u}$  が必要である。

最後に、  $q_1 \geq 0, q_2 \geq 0$  かつ  $q_1 + q_2 = \bar{u}$  ならば、任意の  $p \in \mathbf{R}_{++}^2$  に対し

$$\begin{aligned} q_1(p_1 - \bar{p}^*) + q_2(p_2 - \bar{p}^*) &\geq (q_1 + q_2) \min\{p_1 - \bar{p}^*, p_2 - \bar{p}^*\} \\ &= \bar{u} \min\{p_1 - \bar{p}^*, p_2 - \bar{p}^*\} \end{aligned}$$

が成り立つ。

このような  $q \in \mathbf{R}^2$  の集合は、  $h(p^*, \bar{u})$  に一致している。

3. (a) 以下のような utility function を考える。

$$u(x) = \begin{cases} x_1 x_2 & \text{if } x_1 x_2 \leq 2 \\ 2 & \text{if } 2 < x_1 x_2 \leq 4 \\ \frac{1}{2} x_1 x_2 & \text{if } x_1 x_2 > 4 \end{cases} .$$

このとき、  $u$  は continuous かつ (strictly) quasi-concave である。

$(p_1, p_2) = (1, 1), w = 3$  のとき、(Marshallian, Walrasian) 需要対応  $x(p, w)$  は

$$x(p, w) = \{(x_1, x_2) \in \mathbf{R}_+^2; x_1 + x_2 \leq 3 \text{ かつ } x_1 x_2 \geq 2\}$$

であるので、  $v(p, w) = 2$  . すると、

$$h(p, v(p, w)) = \{(\sqrt{2}, \sqrt{2})\} \neq x(p, w)$$

及び

$$e(p, v(p, w)) = 2\sqrt{2} \neq w$$

が成り立つ。

(b) utility function は以下のように定める\*1。

$$u(x) = \begin{cases} x_1 + x_2 & \text{if } x_1 + x_2 \leq 2 \\ 2 & \text{if } x_1 + x_2 > 2 \end{cases} .$$

\*1 この問いにおける  $u$  の選定に関して、グラフに kink がある (微分可能でない  $x$  が存在する) ことが実質的には重要でないことをここであえて述べておく。このような形状の関数にしたのは、  $x(p, e(p, \bar{u}))$  や  $v(p, e(p, \bar{u}))$  の表記を容易にするためである。

このとき,  $u$  は continuous かつ quasi-concave である .

$(p_1, p_2) = (1, 0), \bar{u} = 1$  のとき , Hicksian 需要対応  $h(p, \bar{u})$  は

$$h(p, \bar{u}) = \{(0, x_2) \in \mathbf{R}_+^2; x_2 \geq 1\}$$

であるので ,  $e(p, \bar{u}) = 0$  . すると ,

$$x(p, e(p, \bar{u})) = \{(0, x_2) \in \mathbf{R}_+^2; x_2 \geq 2\} \neq h(p, \bar{u})$$

及び

$$v(p, e(p, \bar{u})) = 2 \neq \bar{u}$$

が成り立つ .